

せしむし土橋の者の者と見えあらば討たせよとて
近來の福は漸くお塔の思ひをあらうてこの沼の
平の人々と位せむ阿の只思ひて申いふ年た
けこの男甲をぬきてやうるは東海林集人財中迎
に死出ると張興はあせまふとせしむる沼の平の館
に着けけあらはれし松永九郎持越ハ大勢の人数
に連れあはれを尋ねて追掛来りし由をいふ
大者も云ひ多きはしあま打るハ東海林の人
と見えけけ外山殿にをむきて姫君を奪ひとりて
何方へ来りせしを松永九郎持越は是より速くは方

へ返り渡されよとさなく追きき打取中へしと不知れ
ハ東海林の子息二郎昌勝十七来たりしが長刀を振
て走先又進み出て大者の中へいかに松永殿申詞
いふ見ぬ中され程くお新島懐に入る時将人も是
を憐むおひき増て士の類とあふを外に見え今
十郎殿の没後たより方なく渡りせ玉ひて我お父
集人を頼む思ひて安部源兵衛昨夜馳来り涼く
おきくお前迎ひて我お馳来りし我お力を
申して後山殿の耳に入しをいひて長刀
水車のごとく振廻し切て出され候く一門宗統の